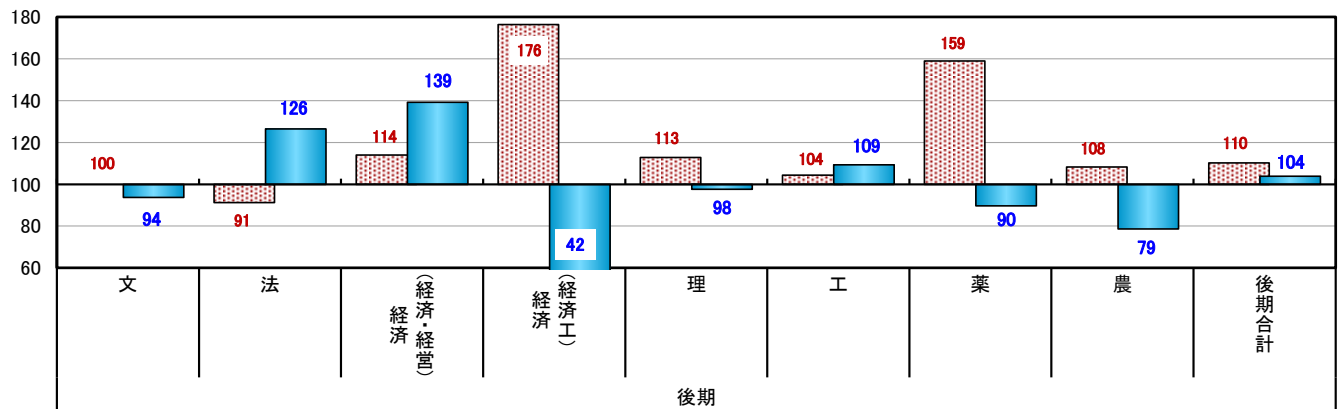
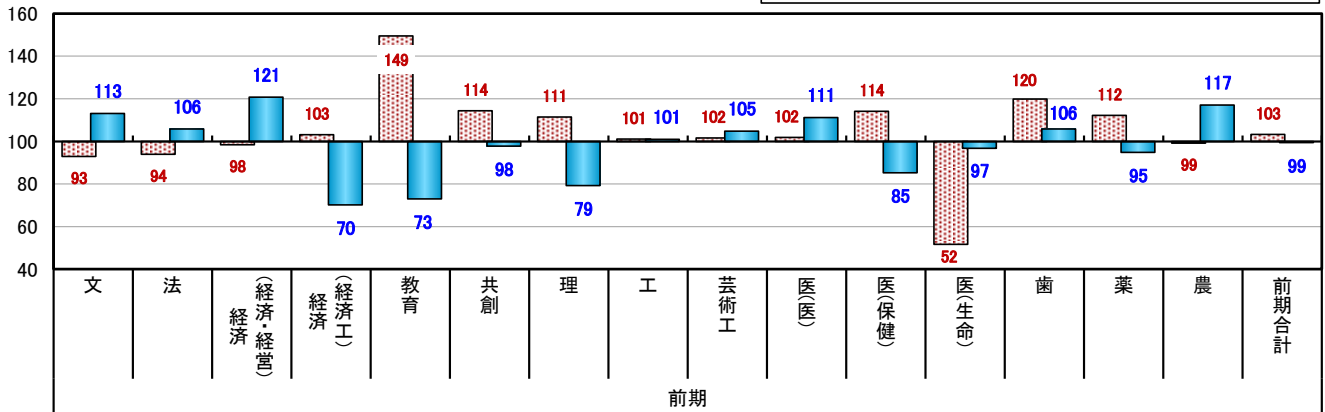


九州大：大学全体では前期は前年度並、後期はやや増加

前期：-32人 後期：+95人

※前年度の志願者数を100とする指数

□2021年度/2020年度 □2022年度/2021年度



主な入試変更点

募集人員：歯(歯)<前>…45人→37人
 個別試験：芸術工(芸術工/未来構想デザイン)<前>
 …数+理2+外 ※理：物+(化 or 生)→数+理2+外 ※理科の物理が必須から選択へ

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は32人(99)の前年度並で、前年度の反動は見られなかった。文理別では、文系は70人(105)のやや増加、理系は102人(97)のやや減少。後期は95人(104)のやや増加で、2年連続増加。文理別では、文系は193人(124)の大幅増加、理系は98人(94)のやや減少。

<前期日程>

- 文(113)は、2年連続減少の反動で増加。
- 法(106)は、やや増加。2019年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- 経済(97)は、やや減少。学科別では、(経済・経営)(121)は2年連続減少の反動で大幅増加。一方で、(経済工)(70)は2年連続増加の反動で大幅減少と対照的。
- 教育(73)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願者数は100人を下回り、志願倍率も3.7倍→2.7倍にダウン。
- 共創(98)は、前年度増加の反動は小さく微減。
- 理(79)は、前年度増加の反動で大幅減少。学科別では、5学科全て減少。特に、(生物)(69)、(数学)(73)、(化学)(77)、(地球惑星科学)(84)はいずれも大幅減少。
- 工(101)は、改組2年目だが前年度並。学科群別では、(建築)の(V群)(120)は大幅増加で、志願倍率は2.0倍→2.5倍にアップ、2020年度の旧(建築)の志願倍率に戻った。(船舶海洋工)・(地球資源システム工)・(土木工)含む(IV群)(114)は増加で志願倍率は1.5倍→1.7倍にアップ。(融合基礎工/機械電気コース)・(機械工)・(航空宇宙工)・(量子物理工)を含む(III群)(110)も増加で、志願倍率は2.1倍→2.3倍にアップ。一方で、(材料工)・(応用化)・(化学工)・(融合基礎工/物質材料コース)を含む(II群)(83)は大幅減少、志願倍率は2.0倍→1.7倍にダウン。(電気情報工)の(I群)(99)は2人の微減で、志願倍率は2.8倍で前年度並、2020年度の旧(電機情報工)の2.6倍を上回った。入学時に特定の学科または学科群を選択しない(VI群)(96)はやや減少、志願倍率は2.5倍→2.4倍とわずかにダウン。
- 芸術工(105)は、やや増加で2年連続増加。新設3年目の(学科一括)(71)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願倍率も5.4倍→3.8倍にダウン。コース別募集では、5コース中4コースが増加。個別試験で理科の物理が必須から選択となった(芸術工/未来構想デザイン)(141)は大幅増加。(芸術工/メディアデザイン)(133)、(芸術工/音響設計)(123)も大幅増加。一方で、(芸術工/環境設計)(86)は減少。
- 医(医)(111)は、増加で2年連続増加。なお、第1段階選抜は、志願倍率が2.79倍と第1段階選抜基準の2.5倍を超えたため実施され、合格率は89.6%だった。
- 医(保健)(85)は、前年度増加の反動で大幅減少。専攻別では、(保健/放射線技術科学)(102)は前年度並。(保健/看護)(75)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。(保健/検査技術科学)(86)は減少。

- 医(生命科学)(97)は、前年度大幅減少の反動はなくやや減少。募集人員が少ないので前年度対比指数ではやや減少だが、実志願者数では1人の減少のみ。
- 歯(106)は、2年連続増加。募集人員が8人減少(募集人員の前年度対比指数82)なので志願倍率は3.1倍→4.0倍にアップ。
- 薬(95)は、2年連続増加の反動でやや減少。学科別では、コロナ禍で注目される創薬系の(創薬科学)(107)はやや増加で3年連続増加。一方で、薬剤師養成の(臨床薬)(82)は2年連続増加の反動で大幅減少。
- 農(117)は、2年連続減少の反動で大幅増加。

<後期日程>

- 文(94)は、やや減少。2015年以降、前年度の反動による増減が継続。
- 法(126)は、前年度減少の反動で大幅増加。2016年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- 経済(103)は、やや増加で3年連続増加。学科別では、(経済・経営)(139)は大幅増加で3年連続増加。なお、第1段階選抜は、志願倍率が18.31倍と第1段階選抜基準の7倍を超えたため実施され、合格率は65.1%と厳しかった。一方で、(経済工)(42)は半減以下の大幅減少で、2012年度以降、前年度の反動による増減が継続。
- 理(98)は、前年度増加の反動は小さく微減。学科別では(物理)(140)の大幅増加、(生物)(53)の大幅減少が目立った。
- 工(109)は、改組2年目だが系統への高い人気もあり2年連続増加。学科群別では、(建築)の(V群)以外での募集だが、(IV群)(129)は大幅増加、志願倍率は6.2倍→8.0倍にアップ。(I群)(124)も大幅増加、志願倍率は9.0倍→11.2倍にアップ、2020年度の旧(電気情報工)の8.7倍も上回った。(III群)(114)は増加、志願倍率は8.8倍→10.0倍にアップ。(II群)(108)も増加で、志願倍率は7.9倍→8.6倍にアップ。一方で、入学時に特定の学科または学科群を選択しない(VI群)(87)は減少。
- 薬(90)は、前年度大幅増加の反動で減少。2016年度以降、前年度の反動による増減が継続。学科別では、(臨床薬)(104)はやや増加で2年連続増加。一方で、(創薬科学)(78)は前年度激増の反動で大幅減少。
- 農(79)は、2年連続増加の反動で大幅減少。